

豊橋市と田原市で二つのごみ処理施設 経費削減につながらないのでは

二つの施設のお金を払ってやっていくというのは、田原市のためにいいのかというところに来ている



河邊 正男
日本共産党田原市議団

住み続けられる、輝くまちづくりについて

- 問** コミュニティ協議会における一番の悩みは、人材の育成と担い手づくりである。市の応援体制は。
- 答** 地域の特性・実情を生かしたまちづくりを進めていけるよう、まちづくりアドバイザー（※）の有効活用を図っていく。
- 問** 地域の負担感を減らすため、人を常駐させ、人材育成することが必要では。
- 答** 継続した人的・財政的支援を行うとともに、地域の特性や実情に合わせた支援を考えていく。
- 問** 若者による活力あるまちづくりを目指し、道の駅での学生による出店を支援するべきでないか。
- 答** 道の駅と調整し、直営店舗での販売体験を行うことは可能。高校から要請があれば随時対応する。
- 問** 住宅・店舗リフォームに幅広い補助制度を設ければ、市内の事業者に新たな仕事生まれるのでは。
- 答** 地域経済の好循環を図るための新たな住宅リフォーム補助制度は現在のところ考えていない。

- 問** ある町のリフォーム助成の評価分析では、3年間で2億6000万円の補助金に対し、波及効果は63億円余とされている。これをどう捉えるのか。
- 答** そのような状況は考えられる。効果があると認識している。

ごみ行政について

- 問** ごみ処理経費を削減するため、豊橋市と田原市で1か所のごみ処理施設を整備する予定であったが、豊橋市では田原市からの生ごみは受け入れない方針となった。両市で二つの施設をつくることになり、経費削減にはつながらないのではないか。
- 答** 2か所の施設を稼働するのはメリットが低い。二つの施設のお金を払っていくというのは田原市のためにいいのかというところに来ている。引き続き豊橋市と調整していく。

（※）コミュニティ活動の支援、市と地域の連絡体制の強化を図るため、各コミュニティ協議会に3～4人配置している市職員。

- 問** 女性の立場で避難所を運営・管理するのは重要だと考える。自主防災会への女性の参画をどのように考えているのか。
- 答** 避難所における衛生面、感染症予防のため、エタノールなどの消毒液を備蓄してはどうか。
- 問** 避難所で必要な備蓄資材について、実情に合った整備を検討していく。
- 答** 自主防災会が「自主防災会」を設け、支援している。
- 問** 災害現場ではジャッキ、カッター、チェーンソーなど資機材が必要になるが、自主防災会への啓発はどのようになっているのか。
- 答** 市内全ての医療救護所で、緊急搬送に対応できるようにしている。
- 問** 救急搬送が必要な避難者が来ると想定される医療救護所への救護用ヘリコプターの離発着の対応は。
- 答** 市内全ての医療救護所で、緊急搬送に対応できるようにしている。

防災、減災の取組について

災害時にボランティアセンターの運用をNPOなど任せざる考えは実績・経験のあるNPOなどと協力して対応していきたい



古川 美栄
自民クラブ